

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	てんから〜ず		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 29日		2024年 12月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31人	(回答者数) 19人
○従業者評価実施期間	2024年 12月 13日		2024年 12月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 17日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小集団での支援、個別での支援を共に取り入れている	子どもたちが現在も通園中の施設や、何より就学後の大きな集団生活で困りごとがなく過ごせることを目標とし、小集団での支援を中心に置いたうえで、より細やかな支援を必要とする場面では個別を取り入れるなど、子ども一人一人に応じたカリキュラムを取り入れているところ。	現在も行っているが、子どもたちの悩みや年齢、発達段階に応じて、一番効果的なグループでの小集団を構成し、支援を行っていく。また、個別では例に挙げるとお箸のトレーニングや識字、数字など、一人一人に丁寧に関わったほうがより伸びる分野に注力し支援を行っていく。
2	支援プログラム内容の濃密さ	季節や年齢・発達段階に合わせて、どのような取り組みをすれば子どもたちにとって必要な力を伸ばせるのかを、職員間で意見を出し合い、毎月様々なテーマを作り支援プログラムを作成している。	職員間で頻りに意見交換や反省を共有しあい、職員の個々も研修等を通じて力を高め、支援プログラムの内容をブラッシュアップしていく。
3	子どもと保護者の方一人ひとりを大切にしている	子どもたちの個性や気持ちを大切に、一人ひとりを誰かと比べてではなく、以前のその子自身と比べ成長したことを褒め、自己肯定感を高めながら支援することを大切にしている。また、保護者の方が孤独にならないよう、悩みや不安な気持ちに寄り添った支援をさせて頂いている。	引き続き、子どもたちと保護者の方々にとって、心から安心して頼っていただける施設となれるよう、日々の支援一つ一つに丁寧に対応していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	オープンして約1年である点	オープンして約1年のため、人員配置など、職員間で相談をしながら、試行錯誤して進めている部分がある。	試行錯誤しながらも、柔軟に子どもと保護者の方のために何が出来るかということが職員で共通の第一優先事項であるため、引き続き職員全員で風通しの良い雰囲気の中運営をしていく。
2	保護者とのコミュニケーションの時間が短い	送迎時は子どもを待たせてしまうため、保護者の方と長くお話をする時間が取れない。	HUG等の支援ツールを使って、個人面談の予約をして頂くなどして、保護者の方とお話をする機会を設ける。
3			